



牛牧小だより

令和7年7月号

瑞穂市立牛牧小学校

褒め上手「そのコツとは？」

「今週は〇人のグッドレポートが届きました。」

毎週木曜日のお昼の放送で、生徒指導主事の堀先生から“グッドレポート”の紹介があります。“グッドレポート”とは、一生懸命に活動をしたり、人のために働いたりしている姿の紹介です。毎週金曜日には校長先生から“super うしきっ子 2025”の紹介をしています。また、学級で目標を決めて、みんなでやり遂げる“やりぬき賞”は職員室前に掲示し、紹介しています。

ご家庭でもお子さんを褒めることは、たくさんあることでしょう。特にお子さんが小さかった頃は、どんなことにも「すごい！すごい！」と褒めることの連続だったのではないのでしょうか。

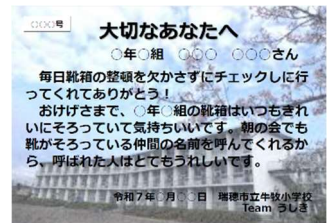
では、ものごころついた子どもたちには、どのように褒めると効果的なのでしょうか。

コロンビア大学の心理学者C.ミューラー教授とC.デュエック教授は、褒め方の実験をし、下記のような興味深い結果が出たとありました。

- ① 子どもたちを無作為にA・B・Cの3つのグループに分ける。
- ② A・B・Cのすべてのグループに簡単な図形のテストを解かせる。
- ③ Aグループには「頭がいいね」と褒める。
Bグループには、何も言わないで置く。
Cグループには「頑張って解いたね」と褒める。
- ④ 次にA・B・Cグループの子どもたちに【難しいけれどやりがいのある問題】か【1回目と同じくらい簡単な問題】か、どちらの問題を行うかを選ばせる。
- ⑤ 【難しいけれどやりがいのある問題】にチャレンジした子どもの割合は、
Aグループは35パーセント（「頭がいいね」とほめたグループ）
Bグループは55パーセント（何も言わなかったグループ）
Cグループは90パーセント（「頑張って解いたね」と褒めたグループ）

この実験からCグループの「頑張って解いたね」とプロセスや努力を褒めた子どもたちは、努力をすれば褒められ、新たな挑戦して問題を解こうとしていきます。Aグループの子どもたちは「頭がいいね」と褒めてもらえるように、解けない可能性がある難しい問題を避ける傾向になり、成績が低下してしまったという結果が出たそうです。

褒められることは、子どもたちにとって、とても嬉しいことです。しかし、褒め方には何か『コツ』があるようです。牛牧小学校も子どもたちの頑張りを褒めて、認めて、たくましく育てていきたいです。



「まごころいっぱい」牛牧の子

「おはようございます。」元気な挨拶をして登校する子どもが多くなりました。また、登校班では、班長さん、副班長さんは班旗を上手く使って横断歩道で安全に渡らせていたり、班員は前の人との間隔をとりながら一列に歩いたりしています。大きい学年の子が小さい学年の子を思いやり、小さい学年の子は大きい学年の子を敬える、いろいろな学年の子が一緒になって支え合える豊かな心が育ってきています。

左の写真は、登校後の活動の様子です。「ミニトマトが赤くなってきたよ。」「ツルがでてきた。」「もうすぐアサガオの花が咲きそうだ。」子どもたちは、こんなことを話しながら、育てている植物に毎朝、水をあげて、成長を見守っています。大切に育てていることが伝わってきます。また、高学年は、校庭のゴミ拾いをしたり、給食の食缶を片付けたりするなど、環境を整えてくれています。